

地域住民など200人以上が寄付した

げやき福祉会が

新潟市に高齢者支援施設を

建設中

新潟市西区の五十嵐地区で高齢者総合生活支援施設「い・いからの郷」の建設が進んでいる。本年8月30日に入札の結果、株式会社本間組が落札価格5億3150万円で落札し、9月に工事に着手した。平成30年6月のオープンが予定(関連記事を23ページに掲載)。

「住み慣れた地域で最後まで暮らす」がコンセプトの同施設は鉄筋3階建。敷地面積2486.41平方メートル、延床面積2072.21平方メートルで、「地域密着型(ユニッ

ト型)介護老人福祉施設入所者生活介護(特別養護老人ホーム)※1と「小規模多機能型居宅介護※2」の複合型高齢者総合生活支援施設。

新潟市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成27年度～29年度)の平成29年度整備計画に基づき、特別養護老人ホームと小規模多機能型の複合施設を整備するもの。平成29年度に、サービスの提供を計画している事業者の公募を行い、選定部会による審査を経て「社会福祉法人げやき福祉会」が事業主体として選定されている。

15年ぶりに新設された。法人設立に必要な基本財産1億円は、「ささあいコミュニティ生協新潟」が5000万円を寄付しているほか、地域住民など200人以上の寄付により成り立っている。

また、建設に要する資金については、新潟県労働金庫からの借入で賄っているが、労金にとっても生協や労働組合以外にこれだけの資金融資を行ったのは県内で初めてのケースとのこと。この点一つをとっても同様の福祉施設建設との違いが際立っている。

一方、地域交流の一環として、2年前に「ゆうやけ子どもげやき食堂(新潟市西区)を開設。仕事で親の帰りが遅い世帯の子どもへの食事の提供や健康面をサポートする「体遊び」などを行っている。「単なる食事の提供に止まらず、「夜の学童保育」の意味合いも強

いのが特徴です」(同食堂) また、昨年から「ボランティア主体による「げやきクラブ」を立ち上げ、「地域の茶の間」を開催しているが、施設の開設後には「地域交流ホール」が地域に開放されるといふ。

長年家業の傍ら、障害者支援をボランティアで続けてきたという会田きよみ理事長は、このたびの施設建設に当り、「単なる老人ホームではなく、寄付をいただいた方々の思いを大切にして地域の福祉拠点、地域住民との交流拠点にしていきたい」と話している。

(※1) 自宅では介護が困難な要介護3～5の人が利用できる入所サービス (※2) 可能な限り自立した日常生活を送るため「通い泊り」「訪問」などを組み合わせて日常生活上の支援や機能訓練を行うもの。要支援1～要介護5の人が利用できる (※3) 10人ほどをひとつの単位(ユニット)とし、食堂や浴室などを共有スペースとしてユニット単位で生活を営むスタイル



完成イメージ



現在は開設準備室が設けられ、来年6月のオープンを目指して理事長以下スタッフ4人で準備に追われている